いざという時を支える地域の医療
～北播磨総合医療センターの役割を知る～

問 北播磨総合医療センター　☎88―8800

病気やけがをした時、必要な医療を受けられること。その安心は、決して当たり前ではありません。救急・急性期医療や高度で専門的な治療を担う北播磨総合医療センターは、多くの命と健康を支えています。しかし、地域医療は一つの病院だけで成り立つものではありません。

本特集では、北播磨総合医療センターの役割や、地域の医療機関とのつながりを通して、これからの地域医療について考えます。

医療を支える体制と設備

北播磨総合医療センターは、三木市と小野市からの負担金によって運営を支えられており、地域の中核病院として、450床の病床と34の診療科を備えています。診療科は、薬による治療などを中心に行う内科系（循環器内科、消化器内科など）18科と、手術などを中心に行う外科系（心臓血管外科、整形外科など）16科があり、さまざまな病気やけがに対応しています。

また、9室の手術室のうち1室は、手術と高度な画像診断を同時に行えるハイブリッド手術室となっているほか、屋上には救急患者の搬送に対応するヘリポートを備えています。

上記の数字からも北播磨総合医療センターが地域になくてはならない医療を担い、多くの人々の命と健康を支えていることがわかります。そして、その役割が特に重要となる場面の一つが一刻を争う「救急」です。

地域医療を支える確かな実績

高度急性期医療の要として北播磨総合医療センターは、地域の医療をどれほど支えているのでしょうか。年間の手術件数や、主な病気の入院患者数が北播磨圏域全体（西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可町）に占める割合から、その役割を見てみましょう。

北播磨総合医療センター 令和７年度

手術件数 **5,608**件

北播磨圏域内の全病院の患者数のうち、北播磨総合医療センターが担う割合（令和6年度実績）

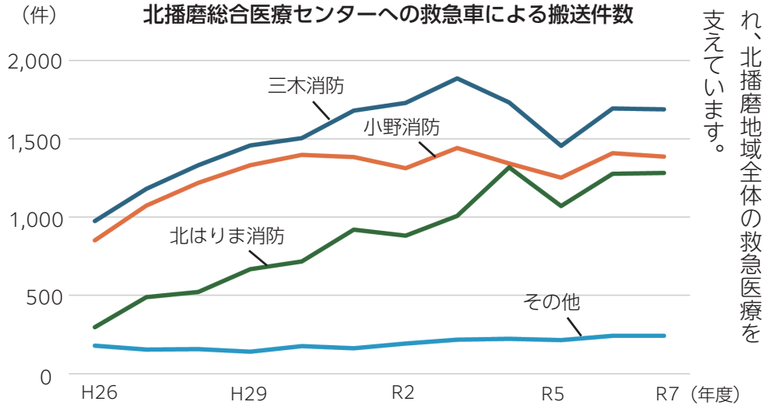
がん入院患者数	脳卒中入院患者数	急性心筋梗塞入院患者数
73.7％	69.0％	71.2％

急性期医療ってなに

病気の発症直後やけがをした直後など、迅速な対応が必要な患者に対して、集中的な治療を行う医療のことです。迅速な検査や手術、専門的な治療などによって、命を守り、症状の悪化を防ぐ重要な役割があります。

増える救急需要、求められる役割

北播磨総合医療センターは、年間約8，700件の救急患者を受け入れており、その件数は増加し、高い水準で推移しています。三木市や小野市だけでなく、近隣市町からも多くの救急患者を受け入れ、北播磨地域全体の救急医療を支えています。



一方、周辺の病院では、人手不足などによる機能の低下が懸念されており、北播磨総合医療センターへの期待はますます高まっています。

救急患者を受け入れるためには、医師や看護師をはじめ、多くの医療従事者が連携し、迅速な検査や治療、入院などに対応できる体制が欠かせません。しかし、医療従事者や病床の数には限りがあり、一つの病院ですべての救急患者に対応することは不可能です。

限られた医療資源の中で、一人でも多くの命を救うためには、救急隊と医療機関が連携し、患者の状態に応じて適切な医療へとつなぐことが重要です。

救急受入件数

令和7年度
8,654 件
（自家用車などでの来院も含む）
1日平均23.7件

医療機関との連携があってこそ救える命がある

三木市消防署
救急救助課　梶岡翼さん

北播磨総合医療センターは、心肺停止事案や循環器疾患、脳卒中などの一刻を争う病気だけに限らず、多岐にわたる救急疾患の受入先としてなくてはならない存在です。

救急搬送時には、患者の重症度や緊急度に加え、病歴やアレルギー、服用中の薬などの情報を正確かつ迅速に伝えることが重要です。そのため、マイナンバーカードを活用して傷病者情報を確認する「マイナ救急」も有効な手段となっています。

救急需要が高い水準で推移する中、限られた救急車を本当に必要な人のもとへ届けるためには、適正な利用が欠かせません。一方で、救急車の要請が遅れることで命に関わる場合もあります。緊急時には、迷わず119番に通報し、判断に迷う場合は、救急安心センターひょうご「＃7119」を活用してください。

こんなときは、まず電話で相談を

救急車が必要かどうか、受診できる医療機関などについて相談できます。

夜間・休日の急な病気や救急車を呼ぶべきか迷ったときは、☎＃7119に電話してください。

- ☑ **24**時間**365**日対応
  相談は無料、通話料は利用者負担
- ☑ **緊急を要すると思ったら、迷わず119番に電話してください。**
- ☑ 聴覚や発話に困難のある方は、電話リレーサービスが利用できます。
  聴覚や発話に困難のある人と電話で話す人との間に手話や文字などで通訳するオペレーターが入り、会話をつなぐサービスです。利用には、(一財)日本財団電話リレーサービスへの登録が必要です。

▲詳細はこちら

病院長に聞く

「質の高い医療を守り、いざという時に頼られる病院へ」

「顔の見える関係」が医療をつなぐ

地域医療を支えるためには、地域の医療機関や介護施設などとの連携が欠かせません。当医療センターでは「患者総合サポートセンター」を設立し、入院時から退院後の生活を見据えた支援を行っています。

また、地域の病院や介護施設などと定期的に意見交換を重ねています。大切なのは、情報のやり取りだけでなく、日頃から**互いに顔が見え、気軽に相談できる関係を築く**ことです。こうした連携が、医療から介護、在宅療養まで途切れることなく患者さんを支える力になります。

最適な医療を届ける

日頃の診療はかかりつけ医が担い、専門的な治療が必要な場合は、高度医療を担う病院へ。急性期の治療後は、必要に応じてリハビリを専門とする病院などへつなぎます。それぞれの医療機関が役割を分担することで、一人一人の状態に応じた医療を地域全体で提供することができます。

自分に合った医療を受けるために

高度な医療を受けられる大きな病院は安心感がありますが、すべての症状に適しているわけではありません。例えば、風邪などの身近な病気では、かかりつけ医の方が待ち時間が短く、じっくり相談できる場合もあります。症状に応じて医療機関を利用することが、患者さんにとってより良い医療を受けることにつながるだけでなく、地域の医療を支えていくことにもつながります。

健康を守るのは、日々の心がけから

病気を治すだけでなく、未然に防ぐ「予防医療」も大切です。バランスの良い食事や適度な運動、年に一度の健診など、日々の積み重ねが将来の健康につながります。まずは、自分の健康に関心を持ち、行動することが大切です。

地域の医療を、未来へつなぐ

当医療センターでは、各診療科の専門性を生かし、質の高い医療の提供に務めています。今後も、地域の皆さんから信頼され、頼られる病院をめざすとともに、将来にわたって安心して医療を届けられる体制づくりに取り組んでいきます。

地域のみんなで

地域の医療を、未来へつなぐ

かかりつけ医を持つこと、日頃から**健康づくりを心がける**こと。そして、病院ごとの役割分担を理解して、**適切な受診を意識する**こと。その1つ1つの行動が、地域の医療を守る力になります。

これからも、この地域で安心して暮らし続けられるように地域の医療をみんなで未来へつないでいきましょう。

それぞれの役割で、地域医療を支える

地域の医療は、1つの病院だけで成り立っているわけではありません。

日頃の診療を行う身近なかかりつけ医から、専門的な検査や高度な治療を行う中核病院、病気やけがの回復や在宅生活を支える医療機関など、それぞれが強みを生かしながら、役割を分担して患者さんを支えています。

こうした医療のつながりによって、地域の皆さんの命と健康、安心した暮らしが支えられています。

地域全体で支える医療の仕組み

地域のかかりつけ医

・身近な病気やけがの診療
・日頃の健康管理・病気の予防
・必要に応じて中核病院へ紹介

紹介

専門的な検査や治療が必要な場合

北播磨総合医療センターなどの中核病院

・専門的な検査・治療
・手術や入院など

逆紹介

治療後、症状が安定したら、地域の医療機関へ逆紹介します。

地域の病院（リハビリ・療養など）

・リハビリテーション
・症状の経過観察
・慢性疾患への治療
・在宅医療への支援　など

継続的な健康管理

・町ぐるみ健診による病気の早期発見
・成人保健相談、健診結果相談会
・生活習慣の改善や予防を支援

自宅 日常の暮らし

在宅医療・訪問看護など

必要に応じて、訪問看護や在宅医療を受けながら、自宅での生活を支えます。

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医は、日常の診療だけでなく、**体調の変化や異変にいち早く気づいてくれる**、身近な医療の窓口です。専門的な検査や治療が必要なときは、北播磨総合医療センターなど適切な医療機関へ紹介してもらえます。紹介状を持って北播磨総合医療センターを受診すると、紹介状なしの場合に必要となる7,700円（歯科口腔外科は5,500円）の選定療養費はかかりません。